

第70回日本ハンドボール選手権大会（男子の部）

戦況用紙

日時 2019年2月2日（土）

場所 山鹿市総合体育館（Aコート）

回戦 準決勝

A 21 大崎電気 ● 22 $\left(\begin{matrix} 12 - 14 \\ 10 - 9 \end{matrix} \right)$ 23 ○ 豊田合成 (JHL)

戦況	前 半	<p>豊田合成・水町のみドルシュートで幕を開けたこの試合、序盤は豊田合成がウーゴを中心とした積極的なディフェンスからボールを奪うと、素早い速攻で大崎電気を先行する展開に。一方の大崎電気は、司令塔の岩永を軸に多彩な攻撃を仕掛けるものの、要所でのシュートが豊田合成G K藤戸の好守に阻まれ、なかなか豊田合成を捉えられない。それでも、18分過ぎから元木、信太の連続得点で同点に追いつく。しかし、豊田合成はすかさずタイムアウトで一呼吸おくと、大橋のポストシュート、ウーゴの7mTで、大崎電気を突き放す。ここで、大崎電気は宮崎を投入して攻撃に変化を加える。すると、またも信太、元木の連続得点で再び同点に追いつく。しかし、豊田合成は、G K藤戸の好セーブから趙の速攻で勝ち越しに成功、前半を2点リードして終了する。</p>
戦況	後 半	<p>豊田合成は、前半終了直前の退場で苦しい立ち上がりとなるが、開始早々に大崎電気も退場者を出してしまう。豊田合成は、広がった大崎電気ディフェンスのスペースを突き、ポストシュート2連取などで、リードを4点に広げる。流れに乗り切れない大崎電気は、パスがうまくつながらない。豊田合成は、G K藤戸の好セーブで流れに拍車をかけると、素早い速攻で18分には、この試合最大の6点リードに広げる。一方の大崎電気も、途中出場のG K東が再三の好セーブでチームを盛り上げると、次第に落ち着きを取り戻していく。21分からは時村のカットインを皮切りに怒涛の5連取で、残り5分には22対23の1点差まで詰め寄る。その後互いにチャンスを迎えるがモノにすることができない。残り30秒で大崎電気はタイムアウトをとり、最後の1チャンスにかけるが、豊田合成が必死に守り切り、初の決勝進出を果たした。</p>

記入者

三村 圭司